1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000638
法人名	有限会社 木犀
事業所名	グループホーム遊友
所在地	宮崎県児湯郡高鍋町大字上江1831番地2 (電話) 0983-26-1626

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年7月28日

【情報提供票より】(20年 7月 11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	9人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,700 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4)利用者の概要(7月11日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2		3名	
要介護3		要介護4			名
要介護5	3名	要支援2			名
年齢	平均 83歳	最低 68歳		最高 92歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	坂田病院、いとう歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心より少し離れた田園と住宅が広がる自然豊かなのどかな雰囲気 の場所に、広い庭を持つ木を活かした建物でホームは立地している。隣近 所に民家もあり地域の中に溶け込んだたたずまいである。利用者が自分 本位のゆったりとした時間を過ごされており、穏やかな表情が印象的であ る。利用者個々人の思いを大切にしたい、また地域に密着したホームとし ての役割を十分に果たしている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である公的機関の苦情窓口の案内は重要事項説明書に記載し説明されている。また医療との連携も看護職の常勤勤務によりかかりつけ医との密接な連携が持たれている。重度化・看取りのケアについては現在指針等の作成中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に自己評価表を配布し日々の業務の振り返りと、認知症介護ケアの原点に立ち戻るよう今回の評価について取組を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回定期的に運営推進会議が開催されている。ホームの活動報告が中心となっているが、今後更に問題提議・検討がなされ、サービスの向上に活かしてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは電話連絡や訪問時に意見や苦情を会話の中から引き出し、スタッフで検討し具体的な改善を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域から介護以外の相談(障害者福祉)があったり、相談の窓口として地域に認識をされている。中学生の体験実習の受入や小学生が放課後遊びに来るなど地域に開かれたホームとなっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に理念があり、理念を具体的にした文章も廊下に掲示してある。利用者本位でゆっくりとその人らしく、安心して暮らせるような内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体的に実践するために新人研修のときや月1回の職員会、また朝のミーティングで共通認識として繰り返し話され日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域から諸々の相談を受けたり、中学校の職場実習を積極的に受け入れ、また近くの小学生が放課後遊びに来るなど地域に開かれたホーム作りがなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員に配布し、日々の業務の振り返りやグループホームの介護ケアの原点に立ち返るよう役立てている。評価の意義について十分理解をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期で運営推進会議が開催されており、ホームの活動報告が中心に話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事あるごとに市町村窓口で相談をされており、運営推進会議以外にも市町村との連携が図れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時や電話連絡などで家族への報告を密に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から会話の中で意見を引き出し、改善に取り組んでいる。具体的には意見・要望として家族から意見が出された内容を朝礼時や職員会などで、職員皆で検討し改善をされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人には業務を全部任せず、一番に利用者とのコミュニケーションを図るよう指導し、異動による影響を最小限にするよう取組をなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会や外での研修への参加など、積極的に職員のスキルアップに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し他のホームとの交流・研修を図るなど取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	日中のデイサービスの利用によりなじみの関係作りがなされ、入所になるケースが多く、スムーズな入所となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理、またホーム菜園での作業の方法、工夫を職員は教えてもらい、利用者を頼りにするなどの支えあう関係が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用し、細かく思いや意向の把握に努めている。		記録が大変だと思われるが、今後も継続し思いや意向の把握に努めてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスを毎月、実施し、記録も充実をしている。遠方の家族には電話で聞き取り、確認するなどの取組が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態等の変化がある場合はその都度、変更が無い利用者など6か月の見直し作成となっている。	○	毎月のモニタリング・カンファレンスを活かして、介護計画の見直しにつなげてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院への付き添い外泊のアプローチなどホームとして積極的にやっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職が常勤で勤務し、かかりつけ医と良好な関係を作っており、適切な医療提供の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、指針の作成を行っており看取りまで対応する体制は整っている。ホームでの看取りの実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は丁寧でやさしさが感じられる。利用者の職員に対する語り掛けにはゆっくりと良い雰囲気に対応されていた。ホーム内に利用者の氏名等掲示があるが、家族了解の下である。了解の無い方の掲示はされていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝は時間が決まっておらず、それぞれの利用者が自分のペースで暮らされている。朝食は起きてこられた方が随時食べていただく等、一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで買出し・調理を行い、時には利用者の手伝いをもらいながら行っている。同じ食事を職員も一緒に食べて、ゆったりと楽しみながらの食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回の入浴を基本としているが、利用者の意思を尊重し柔軟に対応している。希望があれば毎日の入浴も対応ができる体制はとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の菜園づくりなど楽しまれている。また洗濯物たたみや洗濯物干しなど役割を楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全てとはいかないが、買出しの時に一緒に出かけたり、天気の良い日など散歩に出かけるなどの支援を行っている。敷地内の庭やウッドデッキが広く整備されており、散歩や外気浴を楽しむことができる。外部評価当日も楽しまれている利用者がおられた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。近所の方々に説明し協力の要請を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は2か月に1回は行っており充実しているが、非常災害時のマニュアルの整備がされていない。	○	マニュアルの作成・整備を行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事量、水分摂取量など把握して健康管理がなされており、状態に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の木目を活かした建物で、共用空間の天井は高く開放的で、明るく落ち着いた空間となっている。掲示物も必要最小限であり、ゆったりと居心地よく過ごせる空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物が居室には持ち込まれ利用者が落ち着き、心地よく過ごせるように整えている。		